

萃

大阪発達総合療育センター機関紙
第54号 2024年 秋

社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

INDEX

- ・特集に寄せて 船戸 正久1P
- ・特集に寄せて 川端 秀彦1P
- ・大阪880万人災害訓練及び当センターにおけるBCPについて2P
- ・他職種講習会を行いました2p
- ・フェニックス遠足について3P
- ・ゆめ水族園について3P
- ・リレーエッセイ3P
- ・イベントトピック4P
- ・寄付金と寄付物品4P
- ・職員研修実施状況4P

■特集に寄せて

社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長

船戸 正久



残暑が厳しい長い日々が去り、秋の訪れを迎えた涼しい風を感じられる季節にやっとなりました。今日は子どもたちのためのハロウィーンの日、お菓子を求めて地域を回る「Trick or Treat?」のにぎやかな子どもたちの声が聞こえそうです。駐車場の木々には職員がボランティアで提供して下さったクリスマスに向かって綺麗なイルミネーションが夜輝いています。来週から急に温度が20℃以下に下がり、徐々に寒い冬に向かいそうです。利用者の方々やご家族、そしてセンターの職員もくれぐれも風邪に気をつけていただきたいと思います。

今回は、大阪880万人災害訓練と当センターのBCP（Business Continuing Plan）の話題です。病院だけでなく療育センターも災害時に備え、利用者の方々や職員を守り協力して社会から期待されている事業を継続できる計画が必要です。災害時には第2次福祉避難所としての役割も期待されています。とくに医療的ケア児・者の方々を受入れる施設が圧倒的に不足しています。地域や行政とも協議を重ねながら、そうした役割をこなせる施設として今から準備が必要であると感じています。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



■特集に寄せて

南大阪小児リハビリテーション病院 院長

川端 秀彦



ようやく厳しい夏が去って、木々が色づく季節がやってきました。食卓にも秋の味覚が並びだしましたが、それも1ヵ月遅れですね。秋は駆け足でやってきて、急ぎ足で去って行きそうです。行楽が楽しい時を逃さず今を楽しんで下さい。特集にもありますようにフェニックスでも2年に一度の遠足が行われ、プラネタリウムで星空を鑑賞できました。利用者様の笑顔が目に見えます。付き添って下さったスタッフの皆様にはご苦労様でした。9月にはEPSONさんのご協力で5階ホールで仮想水族館（ゆめ水族園）が開催されました。まるで現実の場面にいるような臨場感は、子どもたちだけでなくお母様をはじめとする付き添いの方々にも感動を与えたようです。私も足を運んだのですが、それは見事に海を自然を見せてくれていました。歓声があちこちから聞こえてすばらしい企画だったです。運営にはずいぶんご苦労もあったかと思いますが、苦労に見合う成果がでたのではないのでしょうか。

チームアプローチを主題とした多職種講習会の記事からは、全国の障がい児療育の底上げを目指した当センターの姿勢がよくうかがわれます。日常の診療や生活支援も大切ですが、このようなもうひとつ広い視点での活動は今後も継続していく必要があるでしょう。最後の特集記事は大阪880万人災害訓練と当センターにおけるBCPについてです。災害はいつ来るかわかりません。毎年9月に行われる訓練は日頃からの備えをもう一度確認するいい機会だと思います。職員の皆様ひとりひとりが災害時の対応について考える日となったのであれば幸いです。



大阪880万人災害訓練及び当センターにおけるBCPについて

総務課 課長 義本 弘和

災害に対しては、常日ごろから注意を怠らず、万全の準備を整えていなければならないが、毎年9月1日を『防災の日』の日と定め、台風、高潮、津波、地震などの災害について、認識を深め、これに対処する心がまえを準備しようとする事をねらいとしています。大阪府もこれに併せて9月3日に大阪880万人訓練を実施し、当センターもこれに併せて例年訓練を実施しています。これは災害時の被害を未然に防止し、あるいは被害を最小限に止めるには、どうすればよいかということ、職場で考えるためのものです。

災害発生時何よりも大切なことは、先ず自分自身が助かる事、それには落ち着いて行動することで、そのためには自宅・職場・通勤ルート等良く居る地域のハザードマップで被害想定を把握をし、それに合わせた備えをしておく。自助。自分自身が助かれば地域や身近にいる人どうして助け合う。共助。国や地方公共団体からの。公助。災害が起ること、被災することを前提に、これらがうまく機能することで災害を減らされる減災が可能です。

また当法人は、福祉施設・病院であるので災害発生直後は職員の安全を守りつつ利用者・患者も守り、災害発生後も途切れることなく、サービスを安定的に提供する必要があります。それが事業継続計画(BCP)です。またこの訓練も今年初めて実施しました。職員の安否確認、業務の優先順位の把握の為、毎日の出勤可能者をメールで確認することを実施。過去大規模災害経験のある他施設からも人員の確保が難しい、また国や地方公共団体からの支援にはかなりの時間がかかったとの経験談を聞いています。先に述べたように先ずは自助、共助から利用者・患者のために職場での職員どうしの助け合いが大切と考えます。

年始の能登半島地震、お盆の日向灘地震からの南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)も記憶に新しいところです、職員の皆様は災害への十分な備えをお願い致します。



多職種講習会を行いました

リハビリテーション部 作業療法科 科長 米持 喬

2024年8月5日(月)から9日(金)まで当センター5階ホールで脳性まひ児療育関係職種対象講習会を開催しました。全国から脳性まひ児の療育に携わっている教諭、保育士、看護師、言語聴覚士17名の参加がありました。コロナ禍はオンラインでの講義形式でしたが4年ぶりに対面で開催しました。本講習会は「脳性まひ児の生活支援 一多職種によるチームアプローチ」を主題とし、講義・実技・事例検討を通して、受講生が現場で実践できることを目標としています。初日に船戸先生から「ボバース概念とチームアプローチの重要性」についてご講義頂き、リハビリテーション部職員が講師となり、日頃の取り組みを紹介しました。また、受講生が担当されている事例について検討しました。実技指導では「体験することで体の重みや、体の緊張などがよくわかった」など、オンラインでは伝えられない手ごたえを感じる機会になったと思います。終了時のアンケートには「子どもをみる新たな視点を学ぶことができた」「患者さんに対して、優しくなれる学びになり、自分でもまだできることがたくさんあると感じました」など好評に終えることが出来ました。5日間、運用にご協力頂き、ありがとうございました。



フェニックス遠足について

フェニックス3階病棟 主任 松見 良平

フェニックスではセンター内では味わうことができない体験ができるように、2年に一度のペースで遠足に行っています。今年は集団遠足を実施し3～4人のグループで実施する予定です。先日、初回のメンバーで大阪市立科学館にプラネタリウムを見に行ってきました。当日は電車と介護タクシーに分かれ出発。私は電車利用の方と一緒に、ゆっくり街中を散策しながら向かいました。到着後は、栄養科で用意していただいたお弁当を食べて、いざメインのプラネタリウムの会場へ。映像や音楽の変化に「アハハ～」と何度も笑っておられ、楽しまれておられました。今後も海遊館、大阪城公園などに行く予定です。



ゆめ水族園について

運営局栄養科 科長補佐 恵 幸弘



「わあ～」「すご～い」「きれ～い」感嘆の声、驚いた眼差し表情、にこやかな笑顔。思い描いていた光景が目の前に広がり、まさに願いが叶った瞬間がやって来ました。9/18、EPSONの社会貢献活動「ゆめ水族園」がセンター5階ホールにて開催されました。この「ゆめ水族園」をセンターで開催するきっかけは、コロナ禍の中でなかなか思うような活動ができずに、センターボランティア委員会でも活動の模索を重ねていた折に、この「ゆめ水族園」を知り問い合わせた事が始まりでした。それから申し込みをし、打合せを重ねて足掛け2年がかりで開催する事ができました。

運営上では色々と課題・難題もありましたが、ボランティア委員を中心にセンター職員が一致団結し、事前準備から当日の運営まで協力してくれたおかげで、無事大好評で終える事ができました。EPSONさんをはじめ、関わり参加した全ての人々に感謝するばかりです。



4階フェニックス病棟

詫摩 みう



私は、4階フェニックス病棟で生活支援員として日々働いています。

社会福祉士の資格を大学時に取得し、現場での実践を積みみたいと考え、当センターに就職させて頂きました。現在は介護福祉士の資格を取得するために勉強中です。

そんな私の、「最近の癒し」について紹介します。

3年前、私の家族が増えました。イタリアングレーハウンドという犬種のアンちゃんです。私が仕事から帰ってくると玄関まで出迎え、全力で喜んでくれます。寝てる姿は天使です。そんな姿が可愛くて仕方がありません。

家族には、アンのお世話担当があります。私はちなみに歯磨き担当です。

機嫌が悪い時に、歯を磨くと唸るし噛まれます。毎日、「またお前か」みたいな顔をされます。1番の嫌われ者です。

しかし、最近嬉しいことがありました。トリミングサロンの方が「歯がとっても綺麗ですね」と褒めてくれたんです。

わたしは単純なのでこれからもアンの歯磨きを頑張ろうと思える出来事でした。たまにサボることもあるかもしれませんが。

皆さんも毎日続けていることはありますか？日々の癒しはありますか？

このエッセイを読んでクスッと笑い、そんなことをふと考える時間になれば嬉しいです！



大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます

(R6.7 ~ R6.9)

(R6.7 ~ R6.9)

一般寄付金

月	寄付者 (敬称略)	
7月	国際ソロプチミスト大阪一中央	本園
	楽基金 5件	本園
8月	楽基金 2件	本園
9月	匿名	本園

寄付物品

	寄付者 (敬称略)	物品名	
7月	大野友里子	おもちゃ	本園
	匿名	座位保持装置	本園
	匿名	おもちゃ	本園
8月	匿名	スイマバー	本園
	丸畑久喜子	タオル類	本園
	匿名	洋服	本園

9月の寄附物品はありません



職員研修実施状況

令和6年7月～9月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
令和6年7月27日(土) 13:00～16:00	教育研修部	主任研修	看護部・療育部・ リハビリテーション部 管理職	20名	5階ホール
令和6年9月12日(木) 17:45～19:00	教育研修部	公開講座 「ダウン症候群の臨床診療と研究の最前線」	大阪大学大学院医学系研究科 小児科学 教授 北島康司氏	84名	5階ホール他
令和6年9月28日(土) 13:00～17:00	教育研修部	主任研修	枚方総合発達医療センター 井澤陽子氏	20名	5階ホール



大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会
発行責任者・船戸正久

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)
主として重症心身障がい児者
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)
〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134
訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問介護事業)
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児
〒552-0004 港区夕凧2-5-3
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524
きらり(共同生活援助事業・短期入所事業)
TEL:06-7501-0328 FAX:06-7501-0330
ひなた(生活介護事業)
TEL:06-7501-0319 FAX:06-7501-0330
みらい(放課後等デイサービス事業)
TEL:06-7501-0282 FAX:06-7504-0212
〒546-0035 東住吉区山坂5-12-5